

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 3 年 5 月 6 日 (2021.5.6)

【公開番号】特開 2020-18425 (P2020-18425A)
【公開日】令和 2 年 2 月 6 日 (2020.2.6)
【年通号数】公開・登録公報 2020-005
【出願番号】特願 2018-143237 (P2018-143237)
【国際特許分類】

A 6 1 H 31/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 H 31/00

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 23 日 (2021.3.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ロッドと該ロッドの先端部に設けられた頭パッドとを有する衝撃槌と、該衝撃槌を上下に往復運動させる昇降機構と、を備え、患者に対して胸骨圧迫をする自動心肺蘇生器において、

前記頭パッドは、上側開口部と該上側開口部に連通して前記ロッドの先端部に嵌る嵌合部とを有し、

前記上側開口部の内周面と前記ロッドとの間に、前記頭パッドの角度調整用の隙間が設けられていることを特徴とする自動心肺蘇生器。

【請求項 2】

前記隙間は、前記頭パッドの所定の面を前記患者の胸骨圧迫位置に当てた状態を維持させるように構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の自動心肺蘇生器。

【請求項 3】

前記ロッドは、前記隙間に対応する位置に、前記患者の身長方向に交差する方向に延在する切欠き部を有し、

該切欠き部によって、前記頭パッドの角度調整の許容範囲が、前記患者の左右方向よりも前記患者の身長方向の方で大きくなっていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の自動心肺蘇生器。

【請求項 4】

前記ロッドの先端部の表面は、粗面であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか一つに記載の自動心肺蘇生器。

【請求項 5】

前記頭パッドは、前記嵌合部に連通する下側開口部を更に有し、

前記自動心肺蘇生器は、前記下側開口部から前記患者に向かってレーザー光を照射するレーザー照射機構を備え、

前記衝撃槌は、前記レーザー光の照射時に、前記頭パッドが前記レーザー光の照射を妨げない位置にあることを確認するための初期位置確認手段を備えることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか一つに記載の自動心肺蘇生器。

【請求項 6】

前記頭パッドは、前記嵌合部に連通する下側開口部を更に有し、

前記自動心肺蘇生器は、前記下側開口部から前記患者に向かってレーザー光を照射するレーザー照射機構を備え、

前記頭パッドの角度調整の最大傾き角度は、前記レーザー光の照射が妨げられない角度に設定されていることを特徴とする請求項１～４のいずれか一つに記載の自動心肺蘇生器。

【請求項７】

前記頭パッドは、前記患者に接触する部分に平面部を有することを特徴とする請求項１～６のいずれか一つに記載の自動心肺蘇生器。

【請求項８】

前記自動心肺蘇生器は、人工呼吸手段と、前記衝撃槌と前記昇降機構とを有する胸骨圧迫手段と、を備え、

前記人工呼吸手段と前記胸骨圧迫手段とが一体型の装置として構成されていることを特徴とする請求項１～７のいずれか一つに記載の自動心肺蘇生器。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

本発明に係る自動心肺蘇生器では、前記頭パッドは、前記患者に接触する部分に平面部を有することが好ましい。患者への頭パッドの押し当てによる負荷を分散することができ、胸骨圧迫時の胸骨圧迫骨折を防ぐことができる。また、用手法により近似した心臓マッサージを再現することができる。また、平面部を有することによって、患者の姿勢が搬送中に変化しても当該平面部が患者の胸骨圧迫位置に対して常に平行になるように押し当てることができるので、用手法の手のひらによる胸骨圧迫動作をより忠実に再現できる。

本発明に係る自動心肺蘇生器では、前記自動心肺蘇生器は、人工呼吸手段と、前記衝撃槌と前記昇降機構とを有する胸骨圧迫手段と、を備え、前記人工呼吸手段と前記胸骨圧迫手段とが一体型の装置として構成されていることが好ましい。持ち運び性が良く、救命救急の初期において心肺蘇生を迅速に開始することができる。